

あさくま、出店加速

中部や関東で年15〜20店

ステーキチェーンのあさくま(名古屋市中区)は出店を加速する。年15〜20店ずつ出店し、2018年3月期をメドに連結売上高で前期比4割増の90億円を目指す。個人消費の回復を背景に家族連れなどの需要が高まっており、攻勢をかける。

地盤の中部エリアや、人口規模でみた出店余地の大きい関東エリアで店舗網を広げる。あさくまの前期末時点の店舗数は約40で、18年3月期までに少なくとも倍以上に増えそうだ。あさくまは前期、イタリア料理店や郊外型コーヒー店を買収するなどM&A(合併・買収)による新業態開発も進めてきた。これらの店舗も増やす方針だ。新卒採用も大幅に増やしており、店舗拡大に向けて人員拡充にも取り組んでいる。

リーマン・ショック後に業績が低迷したが、ここ数年はメニューの刷新などが奏功し増収基調が

続いている。15年3月期の連結売上高は前の期比53%増の65億円だった。収益力が高まってきたことで、「出店を加速できるだけの体力がついてきた」(森下篤史社長)と判断した。

職員給与と上げ勧告

愛知県人事委

愛知県人事委員会は8日、2015年度の県職員給与を引き上げるよう大村秀章知事と県議会に勧告した。引き上げが必要と判断した。勧告は2年連続。業績回復で民間給与も改善する中、県職員の賃金も引き

・5万円となり、現行の給与から7・6万円の増額になる。調査によると、事業所の規模50人以上の県内企業平均支給月数は4・10カ月分だが、民間並みの水準にするには4・20カ

三重県松阪市嬉野地区の農家でつくる「権現前営農組合」は、三重大学の協力で復活させた地元由来の大豆「嬉野大豆」を豆ペーストや枝豆にする加工工場を開設した。地域ぐるみで新たな農産物としてブランド化を進め、競争力を強化する。

津の幻の品種から…

「嬉野大豆」で豆腐・枝豆

嬉野大豆「秋枝豆」加工工場開設記者発表



嬉野大豆「秋枝豆」などを生産する(三重県松阪市)

松阪の営農組合が工場開設

三重大学の協力で2年前に「嬉野大豆」を開発した。大粒で脂質が少なく糖度が高いため、豆腐や味噌にするのが甘みや風味があるという。工場は鉄骨平屋建てで延べ床面積約160平方メートル。国の補助金を活用し、7700万円かけて9月末に完成した。無添加無着色の枝豆ペーストや大豆をそのままパックした枝豆、枝豆豆腐などをめたい」と

個性的な店作りで知られる書籍・雑貨販売店「イレッツヴァンガード」

奏功

聞く

0%権限を持たせているが、データを大抵4500万円を見込んで、しかし店舗が増えるきな判断材料にして仕入でいます。エスニック衣類に伴って、経験が浅いまれる商品はアイテム数で料・雑貨のチチカカ事業

海外向

置いた賃金だとした。